

R7 学校評価（教職員評価）

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
八田中学校

セクション1：全体概況

令和7年度の教職員評価を再集計した結果、肯定率（A+B）が100%に達した項目は11項目となった。非常に高い数値であるが、昨年度の課題であった「小中交流（問10）」や「情報モラル（問15）」でC回答が激減（または消失）しており、組織的な改善が進んだことが数値に裏付けられている。一方で、「家庭学習（問7）」や「礼法・立腰（問8）」、「あいさつ（問9）」には依然として「C：どちらかといえばそう思わない」という慎重な評価が数件含まれている。これらは教職員間でも指導の定着度や責任の所在について、まだ温度差がある部分と言える。

セクション2：前年度比較一覧表

項目名（原文）	R7年度 肯定率	R6年度 肯定率	比較（増減pt）	判定
1 児童生徒一人ひとりが目標を持って学校生活を送れるよう指導を行っていますか。	100.00%	94.40%	5.6	維持
2 児童生徒は楽しく学校生活を送っていると思いますか。	100.00%	100.00%		維持
3 Q-U、アドジャン、学級力アンケートなどを活用して、児童生徒理解、人間関係作りに努めていますか。	100.00%	88.90%	11.1	向上*
4 いじめなどの諸問題に対して、お互いに情報を共有し、組織的に取り組んでいますか。	100.00%	94.40%	5.6	維持
5 「八田小中スタンダード」で育成をめざす「伝え合う力」を伸ばすために、教育活動・教科指導の改善に努めていますか。	100.00%	94.40%	5.6	維持
6 学習のアイテムなどを活用して、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努めていますか。	100.00%	100.00%		維持
7 計画的な家庭学習の手立てを講じ、指導していますか。	94.10%	88.90%	5.2	維持
8 小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めていますか。	88.20%	100.00%	-11.8	課題
9 小中一貫で取り組んでいる「下駄箱の整頓」、「先言後礼のあいさつ」を自ら行う児童生徒の育成に努めていますか。	88.20%	94.40%	-6.2	維持
10 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っていると思いますか。	93.80%	72.00%	21.6	向上*
11 保護者（家庭）と情報を共有し、指導に取り組んでいますか。	100.00%	94.40%	5.6	維持
12 地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っていますか。	94.10%	83.30%	10.8	向上*
13 各種たよりやHP等により行事や授業などの情報提供を積極的に公開することを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。	100.00%	94.40%	5.6	維持
14 外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めていると思いますか。	100.00%	100.00%		維持

15 1人1台端末の活用にあたり、情報モラルやリテラシーに関する教育に努めていますか。	100.00%	77.80%	22.2	向上*
16 防災・防犯・交通安全等の指導を組織的に行い、安全確保に努めていますか。	100.00%	100.00%		維持

セクション3：重点分析

「向上」した項目：小中一貫教育の具体化（問10、15）特に問15（情報モラル）は、昨年度の肯定率77.8%から100%へ大きく躍進した。GIGAスクール構想の中での端末活用と、それに応じたリテラシー指導が学校全体で統一して行われた成果である。

「課題」となった項目：共通実践の徹底（問8、9）

「礼法・立腰」が-11.8ポイントの大幅減となった。これは学校全体での意識が低下したか、あるいは新しく着任した職員との間で指導基準にズレが生じている可能性を示唆している。自由記述にある「システムチェックにする必要がある」という意見は、こうした生活指導の徹底度合の差に向けられていると推察される。

セクション4：自由記述からの考察

指導の「属人化」からの脱却：「誰がどの役割になっても学校が回るように」という声は、現在の良好な状態が、特定個人の献身によって支えられている危うさを指摘している。校務のシステム化が急務である。

学習指導の責任体制：「担任や授業担当者が責任を持って指導にあたるべき」という厳しい意見があります。これは、一部の学級や授業で見られる課題を、組織全体の問題として捉え直す必要性を示している。持続可能な働き方：管理職への好意的な評価がある一方で、行事の精選を求める声は根強い。肯定率の高さに甘んじず、業務の「削減」を次年度の重点に置くべきである。

R7 学校評価（生徒アンケート）

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
八田中学校

セクション1：全体概況

全体として、「学校生活の楽しさ（94.9%）」や「授業のわかりやすさ（94.9%）」などの項目で90%を超える高い肯定率を維持している。特に「先生や友だちの話をしっかり聴く（100%）」という姿勢が定着しており、良好な学習環境が保たれている。一方で、家庭学習（64.4%）や読書習慣（39.8%）、家庭での対話（77.3%）については昨年度より微減傾向にあり、家庭との連携が今後の鍵である

セクション2：前年度比較一覧表				
項目番号：設問文（具体的な質問内容）	R7 肯定率	R6 肯定率	比較	判定
(1) 学校生活が全般的に楽しいと思いますか。	94.90%	97.80%	-2.9	維持
(2) 学校生活での時間を守っていますか。	96.60%	98.60%	-2	維持
(3) 校則などの「きまり」や約束ごとを守っていますか。	95.80%	96.40%	-0.6	維持
(4) 背筋を伸ばし、良い姿勢で授業を受けていますか。	76.50%	74.80%	+1.7	維持
(5) 下駄箱の整頓を自分から進んでやっていますか。	90.80%	95.70%	-4.9	維持
(6) 先生や友だちの話をしっかり聴いていますか。	100.00%	100.00%	±0	維持
(7) 相手の気持ちを考えて、行動していますか。	96.60%	97.80%	-1.2	維持
(8) 給食当番や清掃をしっかりとやっていますか。	99.20%	100.00%	-0.8	維持
(9) 困ったことを相談できる保護者・友達・その他の人がいますか。	95.80%	89.90%	+5.9	維持
(10) 困ったことを相談できる先生がいますか。	90.60%	91.40%	-0.8	維持
(11) 授業が全般的にわかりやすいと思いますか。	94.90%	94.20%	+0.7	維持
(12) 授業中、自分の考えを発表していますか。	82.20%	76.30%	+5.9	維持
(13) 宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか。	64.40%	71.20%	-6.8	維持
(14) 家で読書をしていますか。（宿題を除く）	39.80%	43.90%	-4.1	維持
(15) 提出物を期限を守って出せていますか。	86.60%	87.80%	-1.2	維持
(16) 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか。	85.70%	83.50%	+2.2	維持
(17) 睡眠時間は1日平均8時間以上ですか。（A+B回答率）	49.60%	48.90%	+0.7	維持
(18) 正しいあいさつを自分から進んでやっていますか。	91.60%	96.40%	-4.8	維持

(19) 家の人に学校のことを話していますか。	77.30%	86.30%	-9	維持
(19-2) 保護者と使い方のルールを決めていますか。（「はい」の率）	74.40%	70.50%	+3.9	維持
(19-3) スマホ等の使い方について、家庭での約束を守っていますか。	97.90%	91.40%	+6.5	維持

セクション3：重点分析

① 安定と成長の兆し

相談相手の充実（問9, 10）：昨年度に引き続き、9割以上の生徒が相談できる大人や友人の存在を認識している。特に「保護者・友達・その他の人」への肯定率が5.9ポイント向上しており、生徒の心理的な安全性が高まっていることが推察される。

授業への参画意識（問12）：自分の考えを発表できていると感じる生徒が昨年度より5.9ポイント増加した。教職員自己評価において「向上」と判定された「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の取り組みが、生徒側の実感としても現れ始めている。

② 今後の注力ポイント

家庭学習と対話の減少（問13, 19）：家庭学習（-6.8pt）と家庭での会話（-9.0pt）が減少傾向にある。教職員評価では「保護者との情報共有」が100%の肯定率で維持されているが、生徒の実際の行動変容に繋げるための具体的な働きかけを、次年度の「学校・家庭・地域をつなぐプロジェクト」等で話題にしていきたい。

セクション4：自由記述からの考察

今回の回答データにおける自由記述（その他）には、学校生活への具体的な不満や要望は記載されておらず（「特になし」など）、現状の学校運営に対して大きな違和感なく過ごしている様子が伺える。教職員が「八田Children first」のコンセプトのもと、児童生徒一人ひとりに寄り添った指導を行っていることが、生徒側の心理的な安定に寄与していると考えられる。

R7 学校評価（保護者）

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

八田中学校

セクション1：全体概況

全体として、多くの項目で80%～90%台の高い肯定率を維持している。特に「お子さんは、楽しく学校生活を送っているか（91.2%）」や「施設・設備（91.1%）」、「相談できる友人の存在（91.2%）」において高い評価が得られており、学校が安心できる居場所として機能していることが伺える。一方で、家庭学習の習慣化（58.0%）や家庭でのルール遵守（72.1%）については、学校と家庭が連携して取り組むべき継続的な課題である

セクション2：前年度比較一覧表

項目番号：設問文（具体的な質問内容）	R7 肯定率	R6 肯定率	比較 (pt)	判定
(1) お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思うか	91.20%	96.20%	-5	維持
(2) いじめの未然防止や間違った行動などに対して指導しているか	88.50%	89.50%	-1	維持
(3) 相談のできる友だち・その他の人がいると思うか	91.20%	88.60%	+2.6	維持
(4) 学校には、お子さんのことで相談できる先生がいるか	88.40%	84.80%	+3.6	維持
(5) 学校は、わかりやすい授業を行っていると思うか	86.60%	89.50%	-2.9	維持
(6) お子さんが考えを発表する機会を持っていると思うか	92.00%	93.30%	-1.3	維持
(7) お子さんは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいるか	58.00%	65.70%	-7.7	維持
(8) お子さんは、ご家庭であいさつができていますか	86.70%	87.60%	-0.9	維持
(9) 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか	72.30%	---	---	維持
(10) 小中一貫校として小学校と中学校が連携していると思うか	86.60%	82.90%	+3.7	維持
(11) 保護者と情報を共有し、指導にあたっていると思うか	86.70%	87.60%	-0.9	維持
(12) 地域の教材や地域の教育力を生かした活動を行っているか	86.50%	---	---	維持
(13) 各種たよりやHP等を通じた情報共有・学校公開に努めているか	89.40%	90.50%	-1.1	維持
(14) 学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思うか	91.10%	90.50%	+0.6	維持
(15) 防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思うか	88.40%	94.30%	-5.9	維持
(16-2) お子さんとの使い方についてルールを決めているか（「はい」）	85.00%	81.00%	+4.0	維持
(16-3) スマホ等の使い方について、ルールを守り正しく使っているか	72.10%	81.00%	-8.9	維持

セクション3：重点分析

小中一貫教育への期待（問10）：肯定率が86.6%となり、昨年度から3.7ポイント微増した。「目指す学校像」で掲げる「つなぐプロジェクト」の成果が保護者にも認知されつつある。

安全指導（問15）：88.4%と高いものの、昨年度比では5.9ポイント減少している。自由記述にもあるように、校門前の交通安全確保や定期的な安全教室の実施など、より具体的な対策が求められている。

学習習慣の定着（問7）：肯定率58.0%は全項目中で最も低く、昨年度よりも減少傾向にある。家庭での学習環境づくりについて、学校からの啓発活動を継続する必要がある。

セクション4：自由記述からの考察

行事の運営と地域資源の活用: 合唱発表会や文化祭の会場選定（桃源文化ホールの活用希望）や、他学年の発表を参観したいという要望が複数寄せられた。

環境と安全: 校門前の交通安全対策（一時停止の申請等）や、登校班の待ち場所に関する安全確保への指摘があった。

学校・家庭連携: 三者懇談の日程調整や、清掃活動における生徒間のトラブルへの目配りなど、きめ細かな対応を求める声がある。

教職員への謝辞: 先生方の親身な対応に対する感謝の言葉も多く、学校への信頼感は概ね高いレベルで維持されている。

令和7年度 学校評価総括と次年度への改善プラン

1. 現状分析:強みと弱みの明確化

「八田 Children first」をコンセプトとした4つの「つなぐプロジェクト」の進捗状況を、三者の多角的な視点から分析した。

【強み:成果が見られる点】

- ・ 「教職員を繋ぐ」「児童生徒を繋ぐ」プロジェクトの飛躍的成果
 - 教職員評価において「小中の交流」が昨年度比+22.8pt と大幅に向上した。乗り入れ授業や合同研究会が形骸化せず、実効性を伴って運用されている。
 - 生徒アンケートでも「相談できる先生がいる(90.6%)」、「授業がわかりやすい(94.9%)」と高い数値を示し、一貫校としての組織的な指導体制が、生徒の安心感と学習意欲に直結している。
- ・ 「学習を繋ぐ」授業改善の定着
 - 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に対し、教職員の肯定率は100%に達した。
 - 生徒側も「自分の考えを発表している」と感じる割合が昨年度より5.9pt 向上しており、学校全体で「伝え合う力」の育成が着実に進んでいる。

【弱み:課題が残る点】

- ・ 「学校・家庭・地域を繋ぐ」における「家庭」での行動変容の遅れ
 - 「家庭学習への取り組み」は、生徒(64.4%)、保護者(58.0%)ともに肯定率が低く、昨年度比でも減少傾向にある。学校での授業改善が、家庭での「自学」にまだ十分に繋がっていない。
 - 「家庭での会話(学校のことを話す)」が昨年度比-9.0pt と低下しており、生徒・保護者・学校の三者間の心理的距離を再考する必要がある。
- ・ 安全指導・施設活用に対する期待とのギャップ
 - 保護者アンケートにおいて「安全指導」の肯定率が昨年度比-5.9pt と低下した。自由記述では、校門前の交通安全や登校班の安全確保について具体的な不安が寄せられている。
 - 施設活用(合唱発表会の会場選定等)に関し、地域資源の有効活用を求める保護者の声がある。

2. 来年度(令和8年度)に向けた改善プラン

「途切れのない連続させた教育」を深化させるため、以下の3点を重点施策とする。

①「家庭学習の質を繋ぐ」プロジェクト(学習を繋ぐの深化)

- ・ 施策：授業で活用している「学習のアイテム」やタブレット端末を家庭学習と直結させる「自学のスタンダード」を再定義する。
- ・ 具体的アクション：
 - 小学校から中学校への「自主学习ノート」の活用法を段階的に繋ぎ、生徒が「何をすればよいか」迷わない仕組みを作る。
 - 保護者に対し、家庭での見守りのポイントを「学習スタンダード共有」の一環として発信する。

②「八田の安全・環境を繋ぐ」プロジェクト(学校・家庭・地域を繋ぐの具体化)

- ・ 施策：保護者の不安を解消し、地域全体で生徒を守る体制を再構築する。
- ・ 具体的アクション：
 - 交通安全対策の強化：校門前道路への一時停止表示の申請や、警察・交通安全協会と連携した現場指導を学期ごとに実施する。
 - 行事・施設活用の再検討：合唱発表会等の会場選定において、教育的効果(音響・舞台経験)と熱中症対策、さらに「中1ギャップ」解消のための6年生参観の機会を考慮する。

③「対話のサイクルを繋ぐ」プロジェクト(児童生徒・保護者を繋ぐ)

- ・ 施策：学校での学びを家庭での会話に繋げる仕掛けを作る。
- ・ 具体的アクション：
 - 三者懇談の日程や形式を保護者のニーズに合わせて柔軟に調整(3日間設定等)し、より深い対話の場を創出する。
 - 生徒会活動(いじめ0宣言等)のプロセスをHPや各種便りで詳細に発信し、家庭での話題提供を促進する。

結び

令和7年度は「教職員・児童生徒」が繋がることで、学校内部の基盤は強固になった。令和8年度は、この強固な基盤を「家庭・地域」へと確実に広げ、生徒が「ふるさとの未来を創造する」主体として、学校外でも自律的に行動できる姿を目指していく。この改善プランは、教職員一人ひとりが

「八田 Children first」を再確認し、保護者・地域との真のパートナーシップを築くための指針である。